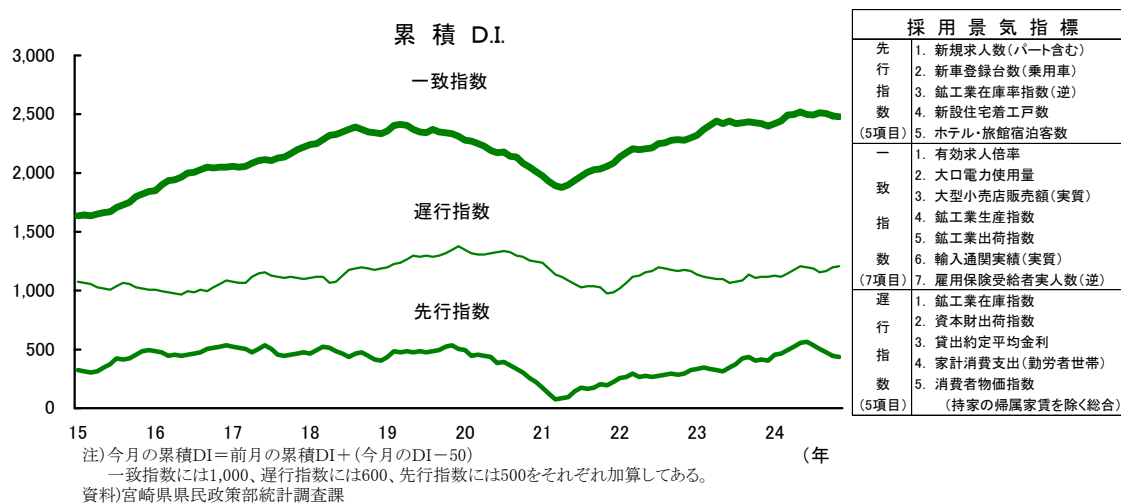


1. 景気動向指数

平成 24 年 11 月の景気動向一致指数は、大口電力使用量、大型小売店販売額（実質）、雇用保険受給者実人数（逆）の 3 項目がプラスとなったものの、全体では 42.9%と 3 カ月連続で 50%を下回った（7 項目のうちプラス 3、マイナス 4）。

先行指数は、新規求人数（パート含む）、新設住宅着工戸数の 2 項目がプラスとなったものの、全体では 40.0%と 5 カ月連続で 50%を下回った（5 項目のうちプラス 2、マイナス 3）。

遅行指数は、家計消費支出（勤労者世帯）、資本財出荷指数、貸出約定平均金利の 3 項目がプラスとなり、全体では 60.0%と 3 カ月連続で 50%を上回った（5 項目のうちプラス 3、マイナス 2）。



景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を 3 カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したものである。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行きを表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の 3 つがある。一致指数が数カ月連続して 50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

$$\text{景気動向指数} = (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} \times 0.5) \div (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} + \text{マイナス項目数}) \times 100(\%)$$

2. 鉱工業生産

11月の鉱工業生産指数は、96.7で前年比5.9%増と2カ月連続で前年を上回った。

主要業種別にみると、電子部品・デバイス（21.8%増）、食料品（14.9%増）などは前年を上回った。

3. 建設関連

① 公共工事

1月の公共工事請負高は、111億8,400万円で前年比25.9%増と3カ月ぶりに前年を上回った。

発注者別にみると、国が200.0%増、県が28.8%減、市町村が38.2%増、その他（独立行政法人等）が88.5%減となった。

② 着工建築物

12月の着工建築物は、棟数が522棟で前年比10.6%減、床面積は103,585㎡で0.8%増となった。

内訳をみると、居住用は棟数18.0%減、床面積15.7%減となり、非居住用は棟数18.6%増、床面積29.2%増となった。

非居住用の床面積を用途別にみると、鉱工業用82.1%増、商業用33.0%減、サービス業用29.2%減となった。

③ 住宅着工

12月の新設住宅着工戸数は、588戸で前年比21.8%減と5カ月ぶりに前年を下回った。

利用関係別にみると、持家は18.7%減、貸家は39.2%減、分譲は178.6%増（マンションは前年0戸→本年50戸、一戸建てが同28戸→28戸）となった。

4. 個人消費関連

① 大型小売店販売動向

12月の大型小売店販売額は、96億3,400万円で前年比2.7%減と2カ月ぶりに前年を下回った。

商品別では、衣料品は25億5,600万円で4.7%減、飲食料品は40億4,600万円で1.5%減、その他計は30億3,200万円で2.7%減となった。

② 乗用車新車販売動向

1月の乗用車新車登録台数は、1,720台で前年比15.4%減と5カ月連続で前年を下回った。

車種別にみると、普通車が704台で21.0%減となり、小型車は1,016台で11.0%減となった。

5. 空港乗降客数

12月の宮崎空港乗降客数は、22万6,654人で前年比7.9%増と12カ月連続で前年を上回った。

乗客数は10万3,872人（前年9万4,388人）と増加し、降客数も12万2,782人（前年11万5,698人）と増加した。

6. 消費者物価指数

12月の宮崎市の消費者物価指数は、99.5で前年同月と比較して0.4%低下した。

これを費目別にみると、光熱・水道（2.3%増）、など3費目は上昇したものの、教養娯楽（1.9%減）、食料（1.3%減）など7費目は下落した。

7. 企業倒産

1月の企業倒産件数は、6件で前年比20.0%増となった。負債金額は5億5,300万円で前年比223.4%増と前年を上回った。

業種別では、一次産業2件、卸・小売業2件、製造業1件、建設業1件となっている。

8. 雇用情勢

12月の有効求人倍率は、0.71倍で前月と同数だった。

新規求人数は、5,919人で前年比7.9%増となった。

卸売業・小売業（28.3%増）、建設業（27.1%増）など13業種が増加となった一方で、運輸業・郵便業（22.7%減）など5業種が減少した。

雇用保険受給者数は、5,637人で前年比7.3%減と7カ月連続で減少した。

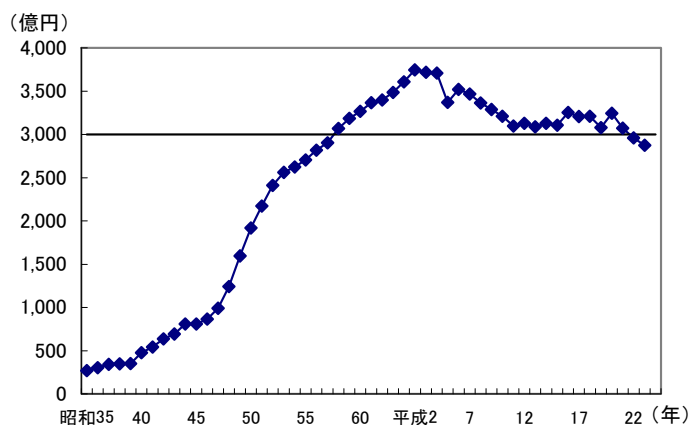
〈今月のトピックス〉～ 平成23年の農業産出額

農林水産省によると、宮崎県の平成23年の農業産出額は、2,874億円（前年比2.9%減、全国7位）となり、3年連続で前年を下回った。22年の2,960億円に続き、2年連続で3,000億円を下回っている。

1～3月に高病原性鳥インフルエンザが発生したことを受けて、養鶏関連が落ち込んだことに加え、肉用牛や豚も、口蹄疫からの回復途上にあったことが影響している。

全国の産出額は、8兆2,463億円（同1.5%増）。都道府県別にみると、1位北海道（1兆137億円）、2位茨城（4,097億円）、3位鹿児島（4,069億円）、4位千葉（4,009億円）、5位熊本（3,113億円）、6位愛知（2,948億円）となっている。

農業産出額



産出額上位10品目

品目	順位		産出額(億円)	
	平成23年	平成22年	平成23年	平成22年
ブロイラー	1	1	486	505
肉用牛	2	2	448	453
豚	3	3	370	392
米	4	4	224	188
きゅうり	5	5	163	180
ピーマン	6	6	100	124
鶏卵	7	7	86	92
生乳	8	8	81	78
かんしょ	9	9	66	71
だいこん	10		58	

※上位10品目で産出額全体の72.4%を占める